

第 18 回鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会 議事要点録

日 時：平成 27 年 1 月 14 日（水）14：00～15：35

場 所：鈴鹿市役所 本館 12 階 1203 大会議室

出席者：35 名（別紙『組織構成及び出席一覧表』参照）

組織委員 28 名（全 35 名中 出席 15 名，代理 13 名，欠席 7 名）

事務局（鈴鹿市）7 名

内 容：以下のとおり（要旨）

1 あいさつ

鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会 会長

鈴鹿市長 末松 則子 あいさつ

【要旨】

- ・今年度の F 1 日本グランプリは、決勝日に台風 18 号が接近する中での開催となったが、委員の皆様方のご協力により、大きなトラブルもなく無事に大会を終えることができた。委員の皆様の御協力の賜物と心から感謝を申し上げる。
- ・F 1 日本グランプリは、鈴鹿市だけの観光資源ではなく、三重県、そして国の貴重な観光資源であるので、今年度も観戦者そして地域住民の皆様の満足度を更に上げるために、当協議会として交通アクセスの整備や様々なおもてなし事業に取り組んできた。
- ・本日の会議では、環境整備部会並びにおもてなし部会の取り組み結果について、各部会から報告をいただき、委員の皆様の御意見を賜りながら、来年度の事業計画づくりに繋げてまいりたい。
- ・いよいよ新たなシーズンの開幕を迎える F 1 世界選手権シリーズにおいては、本田技研工業株式会社がマクラーレンのパワーユニットサプライヤーとして参戦されるので、多くの観戦客が訪れていただけるのではないかと期待している。
- ・これまでの取組を更にレベルアップさせ、一人でも多くの方にこの鈴鹿の地を訪れていただき、そして満足いただけるよう取り組んでまいりたいと考えている。
- ・2015 年の F 1 日本グランプリに向け、本日の会議が有意義な意見交換の場と

なるよう、委員の皆様にご協力をお願い申し上げます、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。

2 報告事項

(1) 2014年F1日本グランプリ大会結果報告について

株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット総支配人 荒木取締役 説明

- ・資料『【鈴鹿サーキット全体レポート】2014F1 協議会用資料』を用いて説明
- ・2014年シーズンは、『Change. Change. Change.』をキャッチコピーとして、Honda F1 復帰に向けてのムードアップやお子様と一緒にファミリーが楽しめるF1 日本GPを目指して取り組んだ。
- ・鈴鹿地域の子供たちを招待するジュニアピットウォークは、9校から630名と昨年を大きく上回る参加があった。
- ・観客動員は、台風の影響や小林可夢偉選手の出場が直前まで不透明だったこと、マシン自体への評価が低かったことなどから過去最低であった。
- ・ただし、海外での日本GPチケット購入者が前年より30%多い約2,000名以上増加していることから、来年以降も期待している。
- ・中勢バイパスをシャトルバス専用道として運用していただいたことについて、お客様から高い評価を得た。
- ・台風接近により、決勝レース終了後のイベントが中止になったため、レース終了後に混雑が発生したが、これについては止むを得ないと考えている。
- ・2015年シーズンは、マクラーレンホンダにアロンソ、バトンというチャンピオン経験のあるドライバーが揃い、人気のあるベッテルがフェラーリに移籍することから日本人ドライバー不在であっても盛り上がり期待できる。
- ・日程は初めて9月での開催となるが、ホンダ参戦ということで、コアなファン以外の層を取り込むことを目指していく。
- ・今年も積極的に取り組んでいくので、協議会の皆様には協力をお願いします。

(2) 2014年 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会の取り組み結果について

①環境整備部会

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

【要旨】

- ・環境整備部会の取組については、多くの関係者の皆様にご協力をいただいているので、資料1『環境整備部会資料』に基づき各事業者より説明をお願いしたい。

【国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・松本氏】

- ・資料1『環境整備部会資料』P1～P7に基づき説明

- ・P2 下段に国土交通省が関わった施策について、大きく①～⑤までに記載してある。
- ・②の会場内ブースについては、台風の接近があったことから、お客様は少なかった。
- ・2015年の帰路マップ（SuzukaVoiceMagazine）への方面別所要時間の掲載については、2014年の数字は台風の影響があることから、どのような形にするか今後検討していく。
- ・アクプロについては、2014年から新たに利用ルートの分散を目的に「方面別の走行状況の表示」、帰宅時間の分散を目的に「Fツイ割店舗情報の表示」を追加実施した。
- ・アクプロ利用者の約7割が帰宅時に出発時間や利用ルートなどの行動を変更していることから、アクプロが行動変更のきっかけとなっている。
- ・アクプロについては利用者を拡大するため、情報量の少なさ、操作性の課題など2015年に向けて対策を検討していく。
- ・シャトルバス運行については、予選（10月4日）および決勝（10月5日）に中勢道路「野町西交差点～徳田町北交差点」で一般車両の通行規制を実施し、シャトルバス専用レーンとして活用した。
- ・シャトルバスと公共交通機関を利用することで名古屋方面、大阪方面ともに自動車利用に比べ短い時間での帰宅が可能となるという効果があった。
- ・来場時、帰宅時ともに所要時間は概ね一定でシャトルバスの定時運行を支援できたことから、利用者アンケートでは8割以上の方に高評価をいただいた。
- ・バスに乗車した後は高評価であった一方、バスに乗るまでの待ち時間が長いという意見もいただいた。
- ・これは、白子駅から戻ってきたシャトルバスがサーキット手前で渋滞に巻き込まれ戻れなかったことが原因であり改善の必要がある。
- ・2015年以降に向けて理論上の理想的な交通の処理の仕方を検討して、それに向けての対応方策を検討・提案していきたいと考えている。
- ・当日の交通状況について、F1観戦者以外の市民の方の感じ方を知るため、鈴鹿市の市民モニターアンケート「メルモニ」を利用してアンケート調査を行った。
- ・市民の約半数が、昨年と比較して交通状況の改善を実感し、各種交通円滑化施策を実施する前の2006年以前からは約7割が改善を実感していることから、我々の取組が一定の成果を挙げていると感じている。

【近畿日本鉄道・岡本氏】

- ・資料1『環境整備部会資料』P8に基づき説明
 - ・2014年のF1日本グランプリ開催時の白子駅の定期外降車人員は表のとおり

りである。

- ・決勝日往路は台風接近の影響によるものか、出足が遅く最終的には前年比2割減であった。
- ・決勝日復路は、白子駅で最大30～40分の電車待ち時間が発生したが、大きな混乱はなかった。
- ・シャトルバスの乗車券をサーキット側で発売したことにより、白子駅側ではスムーズな人の流れであった。
- ・鈴鹿警察署に定期的に見回りを行っていただいたことにより、トラブル等の防止に繋がった。
- ・鈴鹿商工会議所にボランティアガイドを配置していただいたことにより、外国人利用者に対してスムーズに対応することができた。

【伊勢鉄道・服部氏】

- ・資料1『環境整備部会資料』P9～P10に基づき説明
- ・2014年の利用人員は前年比1割強減であった。
- ・海外のお客様について三重県外国人観光客誘致促進協議会の支援により『Japan Rail Pass』利用者の片道運賃の無料化を実施した。
- ・2013年までは、往復無料化をしていたが、今年は往路で『Welcome Pass』をお渡しして、復路を無料とした。
- ・市や警察等の協力により、仮設スロープの廃止や適切な交通規制が行われた。
- ・2014年は3連休でなかったため、伊勢方面への利用者が減ったが、2015年は大型連休となるため、どのような傾向になるのか分析して対応したい。

【三重交通・中林氏】

- ・資料1『環境整備部会資料』P11に基づき説明
- ・関係の皆様のご協力により、中勢バイパスをシャトルバス専用レーンとして利用させていただきスムーズな輸送ができた。
- ・関係の皆様のご協力により、お客様の滞留場所を確保したり、商店街に臨時バス乗り場を設置し5台以上の同時出発ができたことで、スムーズな輸送ができた。
- ・土日については、本田技研工業株式会社のご協力により、社員駐車場をお借りし、滞留場所の確保を行ったが、結果としては今年度も利用には至らなかった。
- ・駅前ロータリーの工事により本年から乗車券発売を白子駅側から鈴鹿サーキット側に変更し、降車後の運賃清算としたため、乗車までの時間短縮につながった。
- ・決勝日は、台風の影響により往路のピーク時間帯が例年より遅くなり、緩や

かに続いていた。

- ・昨年同様、8 番駐車場に臨時バス乗り場を確保いただき、決勝日の復路ピークは 80 台体制で 6 台以上の同時着車、随時出発で対応した。
- ・中勢バイパスのシャトルバス専用レーンの効果はあったが、決勝日の復路は台風の影響で帰宅のピークが集中し、一時、推定 2～3 千名の滞留が生じたことは、2015 年に向けての課題である。
- ・2015 年は、ホンダの参戦による観客増が見込まれることから引き続き中勢バイパスのバス専用レーン化、決勝終了後における稲生高校北交差点～鈴鹿サーキット方面間（中勢バイパス降車後）の渋滞解消について、よろしく願いたい。
- ・名古屋行き直通バスについては、資料のとおりであるが、利用者は前年比 400 名の減であった。

【中日本高速道路株式会社名古屋支社桑名保全・サービスセンター・樋口氏】

- ・資料 1『環境整備部会資料』P12～P15 に基づき説明
- ・渋滞発生状況については資料のとおりである。
- ・対策①→鈴鹿警察署様の御協力をいただき、鈴鹿 I C 出口の信号現示調整を行っていただいた。高速出口側信号の青の時間を変更していただき、出口渋滞の緩和に努めた。
- ・対策②→例年同様、標識車を配置して、迂回推奨・渋滞末尾警戒の案内を実施した。
- ・対策③→ハイウェイラジオ、ハイウェイテレフォン、広域情報板により情報提供を行った。
- ・往路の出口交通量としては、昨年と比べ鈴鹿 I C は土曜日のみが増加し、そのほかは大幅に交通量が減少している。
- ・復路の入口交通量としては、昨年と比べ全ての I C で減少している。
- ・断面交通量を見ても、E T C 割引の縮小の影響もあると思うが、どの区間でも昨年に比べて減少している。

【三重県については、おもてなし部会と一括で報告】

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・出原氏】

- ・資料 1『環境整備部会資料』P17～P20 に基づき説明
- ・鈴鹿サーキット直営駐車場の入庫台数は資料のとおりである。
- ・今年は中勢バイパスが開通したが、シャトルバス専用レーンとして交通規制をしていただいた結果、シャトルバスのスムーズな運行が実現できたので、2015 年以降も同様の規制をお願いしたい。

- ・アンケートの結果は、シャトルバスの運営など概ね高評価をいただいたが、台風の接近により帰路について大混雑があったとの意見もいただいた。
- ・台風の接近により決勝レース終了後のイベントを中止したことから、お客様が一斉に帰られたため様々な問題が発生した。
- ・2015年は、P19 下段の黒矢印の方向へ車を流すことについて、検討を重ねていきたいので協力をお願いします。

【鈴鹿市中央消防署・平井氏】

- ・資料1『環境整備部会資料』P21～P22に基づき説明
- ・救護活動の期間、人員体制等の結果はP21のとおりである。
- ・救護実績についてはP22のとおりである。

【事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長】

- ・資料1『環境整備部会資料』P23～P36に基づき説明
- ・今年も全体の目標として、鈴鹿市周辺の渋滞解消時間を5時間程度に設定し、それを達成するために、公共交通機関の利用分担割合を31%以上に設定するとともに、自動車交通についても、鈴鹿ICの利用割合を20%以下に抑える他、利用時間の均一化を図ることを目指した。
- ・鈴鹿市周辺の渋滞解消時間と公共交通機関の利用分担割合については概ね達成できたが、鈴鹿ICの利用割合については帰宅時に33%と達成できなかった。
- ・速度低下について分析したところ、市内全域については通常日と同程度の速度であったが、これは台風の影響もあり市民の方が外出を控えたためではないかと考えている。
- ・鈴鹿サーキットと近鉄白子駅間のシャトルバスについては、午前中は概ね順調に運行できていたが、決勝レース後の帰路について、バスの回送に時間がかかり最大60分の乗車待ち時間ができた。
- ・気象状況を考えると止むを得ないところもあるが、道伯1交差点からの渋滞対策等について今後考えていきたい。
- ・2015年も3連休でないことやホンダ参戦による観客増に対応するため検討を重ねたい。

②おもてなし部会

事務局 鈴鹿市 小野観光・モータースポーツ振興GL 説明

【要旨】

- ・資料1『おもてなし部会資料』に基づき説明。
- ・最初に、各事業を実施いただいた団体より説明をお願いします。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・上甲氏】

(ジュニアピットウォーク)

- ・公式スケジュール前の10月2日(木)、鈴鹿サーキット国際レーシングコースピットにおいて、5市1町の小学4~6年生を対象に、ピットウォークを実施した。
- ・2014年は、初の試みとして事前に6校の学校とF1チームにメールのやり取りをしていただき、当日会った時により深いコミュニケーションがとれるようにした。
- ・その内2校では、モータースポーツ友の会の協力を得て、F1出前授業を実施し、事前にF1の知識を得た上でピットウォークに参加していただいた。
- ・2015年は、更に発展させる方向で考えていきたい。

【鈴鹿商工会議所青年部・久畑氏】

(鈴鹿商工会議所青年部F1応援イベント)

- ・F1開催期間中の10月3日(金)から5日(日)に、鈴鹿サーキット遊園地内で行っていただいている企画で、メッセージオトドケ隊とくれないのチェッカーフラッグという2つのイベントを開催させていただいた。
- ・メッセージオトドケ隊は、ドライバー別に観戦者からメッセージを集め、ドライバー出身国の国旗を添えて、土曜日の予選終了後に直接お届けしているイベントである。
- ・くれないのチェッカーフラッグについては、観戦者に優勝ドライバーを予測してもらい、的中した方にF1決勝に使用されたチェッカーフラッグを認定証付で贈呈するというものである。
- ・2014年は、チェッカーは振られなかったが、使用する予定であったものを鈴鹿サーキットの証明書をつけて1名の方にプレゼントした。
- ・例年4,000人から5,000人の方に参加いただくが、台風の影響もあり、今年は約3,000人の方の参加にとどまった。
- ・2015年は、ホンダ復活ということで地元が盛り上がるイベントを仕掛けたいと考えているので協力をお願いする。

【鈴鹿商工会議所・酒井氏】

(ウェルカム鈴鹿日本グランプリ感謝セール)

- ・9月21日(日)から10月5日(日)の間、F1得々クーポンという形のチラシを発行させていただいた。
- ・商工会議所の会員の中から参加を募って、9月21日(日)にB2判のクーポン型チラシを新聞朝刊に折り込む形で約60,000部発行した。
- ・実績としては60店舗のうち37店舗での利用があった。

(インフォメーション (通訳ボランティア) ブース)

- ・おもてなしの一環として、海外から多く来られる観戦客のための通訳ボランティアを市内各所に配置するものである。
- ・実施日は、10月3日(金)～5日(日)、場所は、鈴鹿サーキット、近鉄白子駅、伊勢鉄道鈴鹿サーキット稲生駅の3箇所である。
- ・ボランティアスタッフは、鈴鹿サーキット延べ3名、近鉄白子駅延べ34名、伊勢鉄道鈴鹿サーキット稲生駅延べ20名の合計延べ57名のスタッフにご協力いただいた。

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

(オリジナル絵馬で優勝祈願)

- ・F1期間内の本取組については、2012年から始まり3回目となった。
- ・今年は、AUTOスポーツ、中日スポーツ等の紙面で告知いただいたり、Suzuka VoiceFM、FM四日市、CNS等のメディアでも取り上げていただいた。また、チラシやポスターの掲示により取組の周知を図った。
- ・絵馬は昨年とデザインが同じということで、買わずに帰られることがあった。来年は、ホンダがF1に復帰することから、新しいデザインの絵馬を考えたい。
- ・2015年についても同様の活動を継続していきたい。

【三重県雇用経済部観光・国際局・加藤氏】

(三重県の取組)

- ・サポート宿泊施設については11件の宿泊施設で延べ802人の利用をいただいた。昨年は延べ482人であったので、相当伸びている。
- ・サポート宿泊施設はリピーターの方が多いので、情報発信を強化した上で2015年も引き続き取り組んでいく。
- ・情報発信については三重テラスやセントレアを活用した様々な広報を行った。
- ・地元前夜祭においては、三重県観光キャンペーンの一環として、北勢地域部会が行っている『北伊勢DEもてなし隊』のダンスを行った。
- ・地元前夜祭やサーキット内の三重県・5市1町 観光・物産PRブースにおいて、みえ旅パスポートの臨時発給を行い4日間で約770通のパスポートを出させていただいた。
- ・国土交通大臣の招聘など国との連携や海外からのインバウンドにも力を入れていきたい。

【事務局 鈴鹿市 小野観光・モータースポーツ振興GL】

- ・事務局よりその他のイベントについて報告する。

- ・9月27日（土）から10月5日（日）までの9日間、イオンモール鈴鹿ウエストモールにて、鈴鹿市出身のフォトグラファー『熱田護』氏のF1写真パネルを展示し、F1の開催気運を盛り上げた。また、初日の9月27日（土）には、センターコートにて、尾鷲ひのきによるレーシングカー作りなどの体験型イベントを行った。
- ・10月2日（木）から5日（日）までの4日間、各日19時から、ワーナー・マイカル・シネマズ鈴鹿において、アイルトン・セナ没後20年であることから『アイルトン・セナ～音速の彼方へ～』を上映した。また、協議会が所有する『熱田護』氏のアイルトン・セナ写真パネルも、館内に展示し4日間で295人の動員があった。
- ・鈴鹿地元前夜祭では世界のトップ女性ドライバー井原慶子さんや鈴鹿市長によるトークショーやご当地グルメ大集合、北伊勢DEもてなし隊のダンスパフォーマンス等を行い、2,700人の動員があった。
- ・昨年より実施のチケット割引については、得得クーポン、Suzuka Voice MAGAZINE、Fツイ割のクーポン参加店等が共通のフラッグを掲出することにより、一体的なおもてなし感を醸し出した。また、協議会ホームページにクーポンフラッグ対象店舗をマッピングして掲載し、利用者の利便性の向上を図ったが、本事業を知らなかった方が約4割みえたので今後課題が残る結果となった。
- ・本年度の新規事業だが、協議会のイベントや交通などの各種情報をF1観戦者が鈴鹿を訪れる前に提供するため、『F1速報 PLUS』や『GRAND PRIX Special』の専門誌等と連携を図り情報発信の強化に努めた。
- ・鈴鹿F1協議会のホームページの掲載情報が増えてきたことにより、ホームページのリニューアルとスマートフォン対応を実施し、高い評価をいただいた。
- ・アンケート結果を見ると各イベントに関して約8割の方に高い評価をいただいた。

○質疑・意見

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

- ・この鈴鹿F1協議会の取組、特に環境整備部会の取組については、世界的に見ても素晴らしいと思う。環境整備が進み、多くの方が鈴鹿に来やすくなったが、なかなか市内にとどまってくれないので、どのように市内に経済効果をもたらすかが今後の課題である。おもてなし部会として考えていきたい。

【事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長】

- ・情報発信力が弱いことが問題である。今年は、F1専門誌への働きかけを行ったり、ホームページをリニューアルしたが、思ったような効果が得られなかった。F1のチケットを持った人への働きかけが効果的であると思うので、今後はサーキットと協力しながら、そのあたりを強化していきたい。

【鈴鹿市観光協会・鈴木氏】

- ・今年は台風の影響でレース後に白子で食事をしたり、勝速日神社に立ち寄りたりする人が少ないように感じた。今年は少なかったが、一昨年はホテルを取らずにF1を見に来て、観光協会で宿泊施設を訪ねる外国人の方が多かったため、海外への情報発信についても考える必要性を感じる。

3 その他

【鈴鹿商工会議所・山本氏】

- ・2014年よりF1日本グランプリで表彰台に上がった3名のドライバーの手形をいただき、白子駅の西口にモニュメントとあわせて、その手形プレートを表示するため商工会議所として動いている。
- ・2015年のF1ウィークとなる9月25日に白子駅西口で手形の除幕式をしたいと考えている。
- ・平成30年にオープンする予定の新名神の鈴鹿スマートICにも同様の手形プレートを展示したい。
- ・商工会議所青年部や女性部と新しい盛り上げ方を考えるので協議会の皆様にもご協力をお願いする。

【鈴鹿市・末松市長】

- ・私からも協議会の皆様にも協力をお願いする。

15 : 35 終了